

# 後援会だより

「子どもの母校は我が母校」  
「後援会だより」は後援会が保護者の皆さまと作るページです。

## 2017年を迎えるに当たって



後援会会長 祖父江一仁(翼/デザイン工学部)

2016年も、後援会活動に多大なご支援を頂き、ありがとうございます。今年度の後援会は、新たに三つの取り組みを展開してきました。

一つ目は法政大学の長期ビジョン「HOSEI2030」の支援です。

2016年は、法政の明確なブランドイメージを確立するために、法政大学憲章を制定して「法政らしさ」とは「自由を生き抜く実践知」であると宣言しました。この「法政らしさ」が表れたトピックスを大学ウェブサイトに「HOSEI PHRONESIS (法政フロンシス)」で発信しています。後援会は、こうした大学のビジョンに則り、支援していきます。

二つ目は後援会、校友会、大学教職員有志が運営する「HSC (法政スポーツコミュニティ)」の立ち上げと支援です。すでに今年度はHSC経由で

大学や校友会と連携し、野球、サッカー、ラグビー、アメリカンフットボールと一緒に応援しました。来る2017年1月2日(月)、3日(火)は、東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)に陸上競技部が出場します。ぜひ応援への参加をお願いします。

三つ目は「後援会設立70周年記念事業の計画」です。後援会は会員の皆さまに支えられ、来年度70周年を迎えるに当たって、11月に記念式典を予定しています。この記念事業を通じて後援会の理念を見つめ直し、次の活動の原動力にしていきたいと考えています。

後援会は「学生と大学の一番の応援団」です。これからも大学の教育の内容と質を時代の変化に合わせてながら、大学をバックアップしていきます。

2017年も後援会活動へのご理解、ご協力をお願い申し上げます。



後援会総務 中和夫(祥太郎/スポーツ健康学部)

11月11日(金)、12日(土)の2日間にわたり、市ヶ谷キャンパスポアソナード・タワー26階のスカイホールにて「支部長懇談会」および「支部長会議」が開催されました。全国36支部から多数の支部長・役員の方々にご出席いただき、運営委員と活発な意見交換をいたしました。

11日(金)に開催された支部長懇談会のテーマは「情報の共有化」。支部の運営や総会の執行に当たり、各支部が抱える共通の問題点を明確にするために、各支部にお願いしたアンケート結果を持ち寄って報告し合い、みんなでの情報を共有することが狙いです。

支部長会議は、12日(土)午前10時から開催され、祖父江一仁後援会会長のあいさつに続き、大学からは廣瀬克哉常務理事のあいさつがありました。初めに「後援会70周年記念事業」に

関する中間報告がありました。秋山太史副会長から「記念誌発刊」について、古家一郎副会長からは「記念行事」について、進捗状況が全国の支部長や役員の方々に説明されました。

次に「支部総会を充実させるためには」「校友会支部との連携について」「支部総会の運営方法」という三つのテーマでパネルディスカッションが開催されました。4人の支部長から事例が発表され、それに対する活発な質疑応答で、予定時間を超えてしまいましたが、内容の濃い有意義な会議となりました。

最後に、秋山副会長より、パネルディスカッションに活用した資料は、後日後援会ウェブサイトに掲載させていただきますとの補足説明をもって、支部長会議は終了しました。



## 写真で振り返る後援会



- 1 5月21日(土) 幹事会/市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー「スカイホール」
- 2 5月28日(土) 新幹事予定者説明会/市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー「A会議室」
- 3 6月4日(土) 支部長会議/市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー「スカイホール」
- 4 6月4日(土) 総会/市ヶ谷キャンパス 外濠校舎「薩埵ホール」
- 5 6月25日(土) 役員研修会/市ヶ谷キャンパス 外濠校舎 S407教室
- 6 7月2日(土) 役員キャンパス見学会/多摩キャンパス スポーツ健康学部棟
- 7 9月29日(木) 常任参与・参与と運営委員懇談会/市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー「A会議室」
- 8 10月9日(日) 首都圏父母懇談会/市ヶ谷キャンパス
- 9 10月15日(土) 首都圏父母懇談会/多摩キャンパス
- 10 10月16日(日) 首都圏父母懇談会/小金井キャンパス

# 副学長・学部長・後援会役員懇談会報告



後援会総務 松野千栄子 (聖緒/経済学部)

11月12日(土)市ヶ谷キャンパス外  
濠校舎4階S407教室において、  
「副学長・学部長・後援会役員懇談  
会」が開催されました。

この会は、父母懇談会などを通して  
会員から寄せられた質問に副学長、学  
部長が回答するもので、大学と後援会  
の相互理解を深めるための良い機会と  
なっています。今年も、大学から熊田  
泰章副学長、福田好朗副学長、新田誠  
吾副学長、八名和夫副学長をはじめ、  
全15学部の学部長、ならびに学生セン  
ター長の計20人の皆さまに出席いただ  
き、全国36支部の支部長・副支部長を  
含む後援会役員と合わせ、総勢約  
180人が一堂に会しました。

大学を代表する全ての方々からお話を  
伺えるよう、1人当たり2、3のご質問  
を事前に提示し、当日までにご回答を  
用意いただきました。  
が、どの先生も大変  
丁寧かつ詳細な説明  
を文書にまとめてく  
ださいました。当日  
は、約30ページにも  
及ぶ超大作の質問回



答集を手に、出席者全員が大学全体と  
学部それぞれの方向性、取り組み状況  
を分かりやすく知ることができました。  
回答は、約2万8000人の学生を  
有するマンモス校でありながら、学生  
一人一人をよく見ているからこそ答えら  
れる内容でした。いかなる質問も良問  
と捉えて保護者視点を大切に、大  
学側の姿勢が大変印象的でした。「大  
学院進学を希望する学生の心構えや適  
性に対するアドバイス」「自由を生き抜  
く実践知(世界のどこでも生き抜く  
力)を育むために、大学が取り組んで  
いるグローバル施策」「多摩キャンパス  
のバス通学負担軽減について」「小金井  
キャンパス中庭の有効利用化につい  
て」「就職・進級について」など、ス  
ケールの大きいものから身近なものま  
で、約40項目にわたる幅広い質問に対  
して、予定終了時刻  
を過ぎてもお熱心  
にご回答いただき、  
納得感と満足度の高  
い、大変有意義な時  
間を共有することが  
できました。



# 六大学野球応援と富士見ゲート見学



福井県支部支部長 坪井良彰 (彰子/法学部)

福井県支部は10月8日(土)、9日  
(日)に毎年唯一の県外遠征をいたしま  
した。参加人数は総勢10人ほどでした  
が、大人の遠足のような不思議な感覚  
の中で、両日を楽しみ過ぎてしました。  
これも前日から準備や手配をして下  
さっていた、本部役員の方々のお力  
がけです。感謝いたします。

8日の野球応援では、雨のため、第  
1試合が2時間ほど中断していたの  
で、空模様を心配しながらも白熱した  
試合を観戦しました。この試合はくし  
くも「子どもの母校(法政大学)」対  
「我が母校(慶應義塾大学)」の対戦と  
なり、初めて母校の応援を反対側のス  
タンドで見ました。結果は子どもの母  
校の劇的なサヨナラ勝ちで、明治神宮  
野球場が大いに沸きました。



その夜は、人  
形町にある老舗  
の鳥料理店「玉  
ひで」の姉妹店  
「江戸路」で、  
現役学生3人に  
加えて、福井県  
支部総会でご縁

をいただいた榊原蔵総務、市ヶ谷総務  
部庶務課伊藤望さんを交えて、大いに  
親交を深めました。ちなみにこのお店  
のオーナーも法政大学のご出身でした。  
翌日9日は、市ヶ谷キャンパスの見  
学でした。ここでも不思議なご縁か、  
はたまた古家一郎副会長の粋な計らい  
なのか、福井県支部の案内係を担当し  
てくれたのは、文学部2年生の館岡佑  
樹(福井県出身)さんでした。

福井県も交えた案内に、東京のご真  
ん中であることも忘れて、楽しい時間  
を過ごしました。最も新しい「富士見  
ゲート」は、今風の建物で、広々とし  
たカフェテリアや屋上には憩いの場が  
あり、「野外席でくつろぎながら外濠の  
桜を観たら、さぞかし素敵なんだろう  
な」と学生諸君がうらやましくもあり、  
保護者としては  
少し誇らしい気  
持ちにもなりま  
した。来年も、  
多くの会員と一  
緒に訪れたい場  
所が、また一つ  
増えました。



# 体育会応援【フェンシング部】 親からのメッセージ



敷根裕一 (章裕/法学部2年、崇裕/法学部1年)

現在、2人の息子が一緒に、フェン  
シング部に在籍しています。

法政大学フェンシング部は、1935  
年に創部され、今年81年目を迎える伝  
統ある部です。中でも、息子たちが専  
門とするフルール種目においては、全  
日本選手権団体優勝8回、全日本学生  
選手権団体優勝26回、全日本王座団体  
優勝30回を数える日本一のチームで、  
法政が日本フェンシング界を支えてき  
たといっても過言ではありません。

実は私自身も、法政のフェンシング  
部でお世話になり、1987年度に卒  
業したOBです。学生時代は、全日本  
学生選手権で個人・団体ともに優勝す  
るなど、青春  
をフェンシン  
グに懸けてき  
ました。高校  
時代は決して  
同世代のトッ  
プ選手という  
わけではなかつ  
たのですが、  
当時の山本耕  
司監督に推薦



小学6年生の時の国際大会で(崇裕さん)

していただき、憧れの法政大学に入学  
しました。入学後も監督やコーチ、優  
秀な先輩、同期の仲間や後輩たちに恵  
まれ、日本代表として世界選手権に出  
場するなど、大きな夢がかないまし  
た。このように成長できたのも、法政  
大学のおかげです。  
やや大げさかもしれませんが「オレ  
ンジの血が流れる一員」として法政を  
愛し、法政の活躍を見守り、法政フェ  
ンシング部の発展に尽力したいと思  
い、大学卒業後は指導者の道を選択し  
ました。高等学校で教員をしながら  
フェンシング部の顧問(監督)とし  
て、生徒を育てました。その中でも、  
真に実力のある生徒たちを法政大学に  
推薦し、母校の発展に努めてきました。  
2人の息子が誕生すると、できれば  
フェンシング競技を選んで、法政大学  
に進学してほしいと思うようになりま  
した。幸い妻もフェンシングの経験者  
であったため、私の思いをよく理解し  
てくれ、それとなく息子たちにフェン  
シングを勧められるようになりまし  
た。おかげで息子たちも大のフェンシ  
ング好きになってくれました。



15歳の時、モスクワ開催の世界カデフェン  
シング選手権大会に出場(章裕さん)

息子たちは小中学生時代から兄弟そ  
ろって年代別の日本代表に選ばれ、東  
京都でフェンシングの名門といわれる  
東亜学園高校に入学しました。そこ  
で、全国高校選抜、全国高等学校総合  
体育大会(インターハイ)、国民体育大  
会(国体)の3冠を、2年連続で達成  
するという新記録を打ち立て、目標  
だった法政大学に入学することができ  
ました。  
現在では、長男の章裕が昨年の全日  
本学生選手権の個人で6位、次男の崇  
裕は、4月にフランスで行われた世界  
ジュニア選手権の個人・団体で優勝  
し、20歳以下の世界チャンピオンにな



優勝を飾った世界ジュニア選手権の表彰式にて  
(崇裕さん/左から2人目)

りました。現時点での世界ランキング  
も、すでに引退宣言している太田雄貴  
選手を除くと日本人トップなので、一  
躍、2020年に開催される東京オリ  
ンピックの最有力候補になりました。  
これもひとえに、大学関係者の皆さ  
ま、部長、監督、コーチ、部員の皆さ  
まのおかげだと、心から感謝していま  
す。この御恩に報いるためにも、これ  
まで以上に学業と競技の両立を目指し  
て、法政大学とフェンシング部の発展  
に貢献できるよう努めていきたいと思  
います。



2014年の全日本選手権は家族で応援